

はじめに

がんにかかってしまった患者さんやご家族は、治療経過の中で、様々な悩みや負担を体験します。厚生労働省の研究グループ、「がんの社会学」に関する研究グループが2003年に実施した「がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査」では、悩みなどの一端が明らかになりました。調査の概要は、「がんと向き合った7,885人の声」としてまとめられ、がん体験者の悩み（Web版がんよろず相談Q&A）サイト（<https://www.scchr.jp/cancerqa/>）でも公開されています。

研究グループでは、患者さんやご家族の声を生かし、様々な悩みや負担を少しでも和らげることを目標に、解決策をまとめた冊子の作成にも取り組んできました。本書は、その第3集にあたります。

調査結果によると、患者さんの悩みや負担等の第2位に「症状・副作用・後遺症」に関する悩みがあがっています。これら副作用や後遺症などによる日常生活（食事・排泄など）への影響に関しては、患者さんやご家族自身が、主体的に日々取り組み、対処していかなければならないことでもあり、もともと抱えていらっしゃる不安とも相まって大きなストレスになることでもあります。また、食事に関することでも、手術後の食事に関しては、市販の本も出ていますが、抗がん剤治療や放射線治療によって起こる様々な症状への対応を「食事」を中心にまとめた本は、なかなかみつかりません。そこで、第3集では、抗がん剤治療や放射線治療によって起こる食事に関する問題を取り上げ、メニューを含め日常生活の中で、患者さんやご家族が参考にできるようにまとめました。

本書の作成にあたっては、静岡がんセンターの栄養室スタッフによる患者さんやご家族への栄養・食事相談、食に問題がある場合の栄養室の対応例を取り入れ、同時に研究グループの実態調査結果等を通して研究グループの方々からだされたご意見を参考とし、更に日本大学短期大学部食物栄養学科にもメニュー作成に加わっていただきました。

この冊子を「食事への対応」のヒントとして、役立てていただけることを望みます。

なお、この冊子に書かれている内容は、すべてが一人ひとりの患者さんに完全に一致するものではありません。

食事や栄養のことで、困ったり悩んだりした時には、かかっている医療機関の担当医や看護師、栄養士に状況を伝え相談してみましょう。